

やまのべ 偉人伝心 (安達峰一郎編)

1. 見直されだした安達峰一郎博士の真価

●見直されだした安達峰一郎博士の真価

安達峰一郎博士は、“世界の良心”として町内ではよく知られていますが、町外ではあまり知られていないのが残念でした。

ところがここ2、3年の間に“世界平和”のために努力したことをテレビなどで放映



山辺北部公民館に飾られている安達博士の肖像画の写真

され、広く知れ渡るようになり、嬉しく思います。

放映されたテレビ番組を紹介すると、まず平成20年12月7日に、NHK総合テレビ『東北ワンダフル』で『世界が呼んだ“平和の精神”安達峰一郎』として放映されました。次に、平成21年4月4日に、同テレビ『プロジェクト・ジャパン 戦争と平和』で、第一次世界大戦後、世界の平和のため努力したことが熱く語られました。さらに同年6月19日には、テレビ東京『世界を変える100人の日本人』のなかでも戦争のない世界を目指して努力したことが紹介されました。(町ふるさと資料館にビデオがありますのでご覧になります。)

山形市の文翔館(旧県庁)では、『安達峰一郎展』を平成18年と、昨年日本人として安達博士に次いで二人目の国際司法裁判所長となった小和田恒さんが来町されたのを記念して開いています。また、山形大学の都市・地域学研究所で『郷土の歴史的偉人をより深く追求する』というテーマで公開講座を開き、今年で3回目になりますが、毎回山辺北部公民館を会場にして安達博士のことを取り上げています。

このように、最近では“世界平和”の観点から安達博士のことを取り上げられるようになったとともに、その生家がある町も注目されるようになりました。

●幼少期(1)

安達峰一郎家は、江戸時代に生家の向かいの安達久右衛門家(現安達尚宏家)より分家して安達博士の父、久の代で3代目でした。本家の久右衛門家は室町時代に高楯城主になった武田信安の家臣で、玉虫沼を発見し平地の田のため池にしたと

伝えられ、その功績により江戸中期から高楯村の名主兼玉虫沼の“水本”(管理責任者)として活躍し、明治になってからも戸長を努めた旧家です。安達博士の祖父は、久左衛門といい、対賢堂と名づけた寺子屋を開き村の子どもたちの指導に努めました。父、久も対賢堂を引き継ぎ、明治に入り学校制度が始まると学校の教員となりました。後に村会議員になって村政に関わるようになり、明治30年には町の2代目の町長になって活躍しました。ちなみに母は“しう”といい、渋江村(現山形市)の東海林家から嫁いできました。

安達博士はこのような環境のなか、明治2年6月19日(旧暦)、長く続いた武士の世の中が倒れ、日本が明治になって新しい世の中に生まれ変わるというちょうどその時に生を受けました。

5歳ごろから近所の石川尚伯医師(現石川幸生家)の寺子屋(鳳鳴館)で学ぶようになり、7歳の時地元の高楯学校(小学校)に入学、後に山野辺学校に合併したため山野辺学校に移り10歳の時同校を卒業したと見られます。幼少期の評価については、小さいころから秀才であったという見方と、そうは見えずいたずら坊主でガキ大将であったとする見方があるようです。

幼少期の優秀さを強調しているものに、後に安達博士の妻となった鏡子夫人が詠んだ和歌を集めて刊行された『歌集 夫安達峰一郎』のなかで、“幼少”のころについて詠んだ和歌がありますので紹介します。

何時となく支那文学の詩文をば容易く読めり
三年四年の君
此様に周囲の人等驚けり喜び続くる君眺めつつ
皇国字も支那の文字をも易す易すと喜び読みて了解せし君

八歳に補先生との命を受く羨まれたり其当時にては
石川老師葉擦りつつ細やかに漢字教ふ五歳の君に
六歳の君の詩文は東京の雑誌に出でて褒賞を受く
斯くてこそ詩に号あれと師の君は喜び賜ふ旭峰の号

このように鏡子夫人は、安達博士が幼少のころから秀才であったと見ていたようです。

文：山辺町ふるさと資料館長 佐藤継雄

参考図書：安達鏡子『歌集 夫 安達峰一郎』(昭和35年刊行)